

くびきだより



2008年

よしかわ杜氏・大吟醸と天恵楽 米国の鑑評会でダブル金

吉川区長峰の三セク酒蔵よしかわ杜氏の郷がかもす「よしかわ杜氏・大吟醸」と「天恵楽」の二銘柄が、米国最大の日本酒鑑評会「ジョイ・オブ・サケ2008」の大吟醸酒A部門、純米酒部門でそれぞれ金賞を受賞した。審査は8月26・27日ハワイのホノルルで開かれ、約300銘柄を対象にした。

高田高校でオープンスクール

高田高校は9月10日、中学生に高校の授業を体験してもらうオープンスクールを行った。

33中学校から約500人の生徒と保護者、職員が参加、中学校とひと味違う授業を受けた。

信越トレイル全線開通

新潟、長野県境の峰々をつなぐ全長約80キロのトレッキングコース「信越トレイル」が9月13日、整備を終えて全線開通した。

名立の名水よみがえる

名立区名立小泊の正光寺（高橋良弘住職）で、340年前から周辺住民ののどを潤していた井戸が復活し、水道水より冷たい、当時のままの名水がよみがえった。

第60回全日本総合 女子ソフトボール選手権大会

北京五輪金メダルのメンバーが参加した、第60回全日本総合女子ソフトボール選手権大会が9月19日から22日まで、上越市と糸魚川市の4会場で、32チームが参加して開催された。

準決勝はルネサス高崎の上野由岐子投手、太陽誘電の坂井寛子投手の両北京代表がそれぞれデンソー、豊田自動織機を零封し、集まった多くの市民やファンを魅了した。

トキ野生復帰シンボルデザインコンテスト 清水さん（上越市大豆1）が優秀賞

27年ぶりに野生復帰を果たしたトキ。トキの野生復帰を応援するため、このほど行われた「トキ野生復帰シンボル・デザインコンテスト」で上越市大豆一の清水千絵さん(26)が優秀賞に輝いた。

テーマは「佐渡の棚田を滑空するトキ」。トキが自然に向かって羽ばたいていく力強さと開放感を表現した。

デザインコンテストは県や佐渡市などが主催し、全国24都道府県から108点の応募があった。審査の結果、最優秀賞1点と優秀賞5点が選出5月に佐渡市で表彰式を行った。

大分国体カヌー競技 山田が県勢初優勝

「チャレンジ!おおい国体」が9月27

日に開幕。初日のカヌー競技で山田亜沙紀(24、国際アウトドア専門学校講師)が、スラローム・カヤックシングルで、県勢初優勝を果たした。

えちご・くびき野100kmマラソン

くびき野の大地、海岸線、中山間地を舞台にした「えちご・くびき野100kmマラソン」が10月11日、冷たい雨が降りしきる中、50・100kmの両部門に1,420人のランナーが出場して開かれた。

県縦断駅伝 上越連覇途絶える 逆転許し総合2位

26チームが参加した第61回県縦断駅伝は10月18日、前半の9区92.3km(妙高-長岡)では上越が2位の新潟中央に1分49秒差をつけて折り返した。しかし、19日後半の9区間109.9km(長岡-新潟)では、逆転を許し、総合で2位に終わった。

優勝した新潟中央との差は1分9秒。史上初の8連覇はならなかった。

高志小が「博報賞」受賞

10月、上越市立高志小(小松隆校長、児童553人)は博報児童教育振興会の行う博報賞を受賞した。あわせて文部科学大臣奨励賞も贈られた。

同賞は子どもたちの豊かな人間性育成に献身、努力する学校、団体、個人を顕彰するもの。

美容室「HAIR・MORE」の
市村あゆみさん 芸術祭全国大会
着装コンテスト部門
振袖着付け 初出場で入賞

上越市安江一の美容室「HARE・MORE (ヘア・モア)」の市村あゆみさんは、10月28日、横浜市の横浜アリーナで開かれた第58回「芸術祭全国大会」(国際美容協会主催)に初出場。着装コンテスト部門「振袖着付けの部」で審査員特別賞を受賞した。

20年秋の褒章 上越から2人受章

平成20年秋の褒章で、上越関係は頸城区鶴ノ木在住で現役の杜氏である鈴木健さん(77)が業務精励で黄綬褒章、上越市樋場の自然公園指導員の橋本正巳さん(70)が自然保護功績で藍綬褒章をそれぞれ受章した。

糸魚川産ササユリの種 宇宙へ

国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」に“滞在”する糸魚川産ササユリの種が、フロリダ州ケープカナベラルのNASA・ケネディ宇宙センターからスペースシャトル・エンデバー号で打ち上げられる。種は約6ヶ月間宇宙で過ごしたあと帰還し、さまざまな文化事業に活用される計画だ。

飯小金管部 3年ぶりに全国大会へ

上越市立飯小金管部は11月22日に千葉県の幕張メッセで行われる全日本小学校バンドフェスティバルに出場。8月の県大会、

10月の西関東大会で優秀な成績を収め、3年ぶりに全国への切符をつかんだ。

ボクシング 杉田兄判定負け
スーパーフライ級 日本王座奪取ならず

ボクシングのスーパーフライ級日本王座決定戦が12月17日夜、東京・後楽園ホールであり、上越市上真砂出身で日本同級一位の杉田純一郎(25、ヨネクラ)はWBC同級六位の中広大悟(27、広島三栄)に1-2の小差の判定で敗れ、王座奪取はならなかった。

2009年

末広小5年・石井真奈さん
学生選抜書道展 全国2位、大賞に輝く

浦川原区山印内の石井真奈さん(上越市末広小5年)は、財団法人日本書道教育学会(本部=東京)主催の第28回全日本学生選抜書道展小学5年生の部で、文部科学大臣賞に次ぐ全国2位の学会大賞を受賞した。

越後上越「天地人博」開幕

NHK大河ドラマ「天地人」ゆかりの地・上越市を全国に発信する「天地人博」が1月17日、上越市西本町4の直江津屋台会館で開幕した。会期は12月20日まで。

開館時間は午前9時から午後5時(4月から9月は午後6時)まで。無休。入場料は大人600円、小中学生300円。

「天地人博」
オープニング記念イベント
兼続、景勝が熱いメッセージ
トークショー観客1,300人魅了

現在放映中のNHK大河ドラマ「天地人」で直江兼続役を務める妻夫木聡さんと上杉景勝役の北村一輝さんが1月25日、上越文化会館で「越後上越天地人博」オープニング記念イベントのトークショーに出演。定員1,300人を大幅に上回る8千通の応募があり、市民の熱烈な歓迎に笑顔をのぞかせていた。

第64回国民体育大会
冬季スキー競技会
「トキめき新潟国体」上越勢Vラッシュ

2月19～21日湯沢町・苗場スキー場で行われたアルペン大回転で、チームアルビレックス新潟の2選手がそろって優勝した。成年女子Bの清澤恵美子(25)は昨年の成年女子Aに続き種別を越えて二連覇を達成。トリノ五輪代表の成年男子Bの吉岡大輔(29)は国体初優勝した。

十日町市吉田クロスカントリー競技場で行われたノルディック複合で、トリノ五輪代表の成年男子Bの北村隆(31、盛田スポーツ振興財団)は、昨年2位の悔しさを晴らす2年ぶりの国体制覇。

100年の歴史にそれぞれ幕
上越市中央5の吾妻湯
上越市本町6の映画館「高田日活」

昔ながらの銭湯として親しまれてきた、上越市中央5の「吾妻湯」が3月31日、百

年に及ぶ歴史に幕を下ろした。

創業は明治43(1910)年、かつては20軒以上あったという地区の銭湯も家庭風呂の普及や燃料の高騰などの影響を受け、平成13年度には市の景観大賞にも選ばれ親しまれたが、とうとう姿を消した。

また、まもなく築百年を迎え“日本最古の映画館”と言われている上越市本町6の映画館「高田日活」が3月30日で営業を終了した。

4月から「街なか映画館再生委員会」(岸田國昭代表)が運営を引き継ぎ、「高田世界館」(仮称)として映画上映やイベントの舞台としてまちづくりの拠点となる。

200年以上続く伝統芸能
雪下駄職人・竹田亀治さんが引退

日本でただ一人の雪下駄職人と言われる上越市東本町五丁目の竹田亀治さん(90)が体力の衰えなどを理由に引退し、年度末をもって店を閉めた。同時に、雪国に200年以上続く伝統芸能にも幕が下ろされることとなった。

高田図書館に文科省表彰
子どもの読書推進に貢献

上越市立高田図書館が平成21年度の「子どもの読書活動優秀実践図書館」として文部科学省から表彰を受けた。4月23日に東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターで表彰式が行われた。

同館は「図書館こども祭」や「おはなし

会」ブックリストによる子ども向け図書の推薦、学校図書館の支援などを行っており、それらの活動が評価された。

全国高校総合文化祭に 高田高校生多数参加

7月29日～8月2日に全国高校総合文化祭（文化部のインターハイ）が三重県内で開催された。高田高校からは以下の部門への参加した。

- 将棋部門：男子団体戦
- 美術・工芸部門：丸山のどかさん（2年）
- 小倉百人一首かるた部門：
平山のぞみさん（3年）

岩の原ワイン マスカット・ベリー A2007(赤) 国産ワインコンクールで 金賞受賞

上越市北方の岩の原葡萄園の製造した「岩の原ワイン マスカット・ベリーA2007(赤)」が2009年「国産ワインコンクール」で初めて金賞を受賞した。

日本ワイナリー協会、山梨県ワイン酒造組合などで組織する実行委員会が主催する2009年国産ワインコンクールは2003年から始まり7回目となる。審査は、原料ブドウの属性、色別など13部門で実施。同社は国内で品種改良されたブドウを主体に作る国内改良等品種部門にエントリーし、これまでは銅賞が最高だった。

合わせて「ヴィンテージ2007(赤)」が銀賞、「深雪花(赤)」が銅賞に入った。

糸魚川ジオパークが 世界ジオパークに決定

世界ジオパークの候補地になっていた糸魚川ジオパークが8月23日に正式認定された。認定証の授与式は2010年4月に、マレーシアで行われることになっている。

上越で太閤秀吉の聚楽第を描いた 屏風発見

太閤秀吉が贅を尽くして建てた聚楽第に後陽成天皇が行幸する光景と御所に迎える秀吉一行の光景を描いた「御所参内・聚楽第行幸図屏風」が郷里上越で発見され、9月12日から10月4日まで、上越市立総合博物館で一般公開された。

屏風は、6曲1双で、大きさは156.3cm×358.4cm。屏風の上部には、とんぼ釣りや竹馬乗りなど当時の子供の遊びの模様や呉服店・扇屋など商店の店先も描かれており、興味深い。

聚楽第は、秀吉の私邸で政務の場であったとのことだが、完成から8年間で破壊されており、謎に包まれている。これまで聚楽第を描いた屏風は、三井記念文庫蔵のものや堺市博物館蔵のものなど3例知られているが、調査に当たった狩野博幸同志社大教授によれば、前者は天皇行幸について描いておらず、後者には御所が描かれていないという。これに対し、今回発見された屏風は「聚楽第行幸という秀吉一世一代のページェントを完全な形で描いた唯一の作品」といえ、「美術史的のみならず歴史学

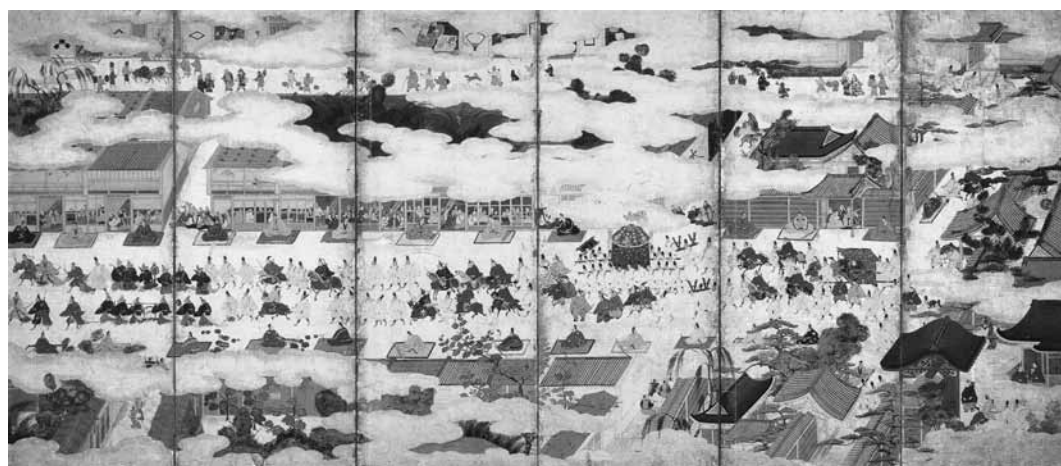
的にもはなはだ貴重な作品」だとのことである。

9月の連休には会場に大勢の見学者が押

し寄せ、朝から20～30分待ちの長い列ができた。



左隻



右隻

出典：上越市立総合博物館パンフレット